

## <メディアウオッチ> 東京都知事選の開票結果とメディアの報じ方

2014年2月12日 上出 義樹

2月9日に投票が行われた東京都知事選は、各報道機関の事前の世論調査が予測した通り、舛添要一氏が2位の宇都宮健児氏、3位の細川護熙<sup>もりひろ</sup>氏らに大差をつけて当選。告示前に注目されていた細川氏と小泉純一郎氏の元首相コンビによる「脱原発」旋風は不完全燃焼の形に終わった。舛添氏の勝利を追い風にして、安倍晋三政権は早速、国会答弁などで、あらためて全国各地の原発の再稼働を目指す前のめりの姿勢を示している。こうした国政との関係を含め、今回の都議選の結果から何が見え、メディアはそれをどう報じたのか。インターネットをめぐる新たな動向も併せ、いくつかの特徴に目を向けたい。

### 「脱原発の敗北」強調する読売、産経

大きな風は起きなかったにせよ、今回の都知事選ではメディアにとって、「脱原発」の是非が最大の関心事になったことは間違いない。この点を在京各紙がどう評価しているかを、10日付朝刊から大づかみに読み取ってみよう。

日ごろ原発に批判的な立場の朝日、毎日、東京の1面は、「脱原発」を掲げた細川、宇都宮両氏が敗北した選挙結果に対し、1面で「脱原発争点化避ける」（朝日）、「原発即ゼロに難色」（東京）など、比較的ソフトな表現の見出しを付けている。

一方、原発推進を社是とする読売と産経は、それぞれ「原発に『熱狂』なじまぬ」、「共感呼ばなかった『脱原発』」のタイトルが付いた政治部長名の論評記事を、ともに1面に掲載。1面以外でも、『脱原発』ムードの敗北だ」（産経「主張」）などと、今回の都知事選の結果が全国各地の原発の再稼働に弾みをつけることへの期待感を強くにじませている。

### 安倍政権は都知事選勝利を「お墨付き」？に再稼働へのめり

そして、安倍政権は都知事選開票翌日の10日、閣議決定を先送りしてきたエネルギー基本計画について安倍首相が早速、衆院予算委員会で「原発再稼働の状況などを見極める」ことに触れながら、「エネルギー政策を構築していく大きな責任がある」と答弁するなど、舛添氏の当選を受ける形で、原発再稼働に向けた動きを一気に加速させようとしている。

菅義偉官房長官は確か「都知事選に脱原発の争点化はなじまない」というようなことを口にしていて、また、舛添氏自身も「即原発ゼロ」ではないが、「脱原発」に反対はしていなかったはずである。それが、舛添氏の都知事選勝利で、「原発再稼働」がいつの間にか国民の「民意」になってしまったとしたら、なんとも姑息なやり方と言わざるを得ない。

### 最新の世論調査では「反対」が「賛成」を大きく上回る

しかし、10日午後7時のNHKニュースが報じた最新の世論調査によると、原発再稼働への賛否を明らかにした回答のうち、「反対」は38%で「賛成」の24%を大きく上回って

いる。産経の「主張」などとは異なり、都知事選の勝敗にかかわらず、原発再稼働に否定的、あるいは消極的な世論が相変わらず多数派なのである。

ただ、原発に批判的な世論が多数を占めているにもかかわらず、原発再稼働を後押しし兼ねない今回の都知事選の結果は、細川・小泉コンビの準備不足の問題などを含め、これまでも大きな選挙での不振が目につく「脱原発」陣営に対しても、新たな課題を突き付けていると言えるだろう。

### 下町地区や市部に強い舛添氏と宇都宮氏

それでは、23区と市町村別に主要各候補の得票や有権者の投票傾向などを見てみよう。主要各候補の全都の平均得票率は、当選した舛添氏が43.4%、2位の宇都宮氏が20.2%、3位細川氏19.6%、4位田母神俊雄氏12.5%、5位家入一馬氏1.8%と続く。これを、社会派ブログ「Chikirin (ちきりん) の日記」(<http://d.hatena.ne.jp/Chikirin/20140210>)が集計した区・市町村別の各候補の得票率と比べると、いくつかの興味深い特徴がわかる。

舛添氏と宇都宮氏はともに下町地区や市部で全体の平均得票率を上回る傾向が見られる。これはそれぞれ公明党、共産党の前回参議院での得票傾向と重なる部分が多く、両党がそれぞれ舛添氏と宇都宮氏の集票の牽引役になっていることが読み取れる。

### 細川氏と田母神氏はセレブな有権者に人気？

ちょっと面白いのは、地価が高くリッチなイメージが強い千代田区、中央区、港区の3区で、細川氏が20-23%、田母神氏が15-18%と、得票率がともに平均より高く出ていることである。逆に宇都宮氏はこの3区では得票率が14-15%にとどまり、平均を大きく下回っている。港区の得票率で宇都宮氏が15.3%、田母神氏15.0%と、僅差で宇都宮氏が上回っているほかは、細川、田母神氏の得票率をかなり下回っている。「お殿様」(細川氏)や「愛国主義者」(田母神氏)は、セレブな有権者に人気があるということだろうか。

### 家入氏はインターネット党結成へ

一方、都知事が力を入れるべき政策をネットで公募するという「有権者参加型」のユニークな選挙活動を展開した家入氏は、いわゆる山の手地区の得票率が2-3%台で平均より高いが、ほとんどの市や下町地区で平均を下回っている。その中で渋谷区3.7%、目黒区が3.1%と、ともに3%を超え、23区別のそれぞれ1位と2位を占めている。同氏は目具が拠点とあってか、拙稿の掲載サイトであるこの「渋谷WEST」の対象エリアとぴったり重なっているのが興味深い。家入氏は今後、インターネット党を結成して区長選に候補者を立てることなどを考えているという。ネット選挙の新たな動きとして注目したい。

(かみで・よしき) 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大学院博士後期課程(新聞学専攻)在学中。